

令和5年が終わろうとしています。今年は、立冬(11/8)を過ぎても気温の高い日がありました。紅葉した木々から落ちた葉に気付く子も多く、確実に「冬」を実感していました。空を見上げれば、気持ちの良い青空が広がり、外での活動も気持ちよさそうでした。

『冬青空』『冬うらら』などと似ている季語『小春空』『小春かな』を紹介すると「春の季語?」と疑問の声。

「冬なのに春みたいって意味の季語です」と説明すると、人気のある季語になりました。



『小春空川越町の時の鐘』『小春空ベンチに座ってひと休み』  
『小春空おにごっこするけい馬場』  
『落葉にね踏んでもいいかささやくよ』

12月に入ると「十二月」「師走」「冬の朝」などの季語で俳句を作りました。少しずつ寒さを感じるようになりました。

『冬の朝よせるまゆげと服選び』 『冬の朝準備しながら見るニュース』  
『カラオケで高音でない十二月』 『クシャクシャと葉っぱ踏む音十二月』  
『スーパードッジ筋肉痛だ十二月』

こどもたちに「12月とって思い出すことは?」と尋ねると、興味関心はクリスマスやサンタクロースに多く集まりました。学校を訪問すると、校内の空いたスペースや受付に季節を感じる工夫がされていたり、廊下にこどもたちの作成したクリスマスリースが掲示されていたりしていました。



『どきどきのクリスマスイブのこの気分』 『クリスマスツリーの中にチョコレート』  
『クリスマスハムスターくんのたん生日』

「除夜の鐘」「おでん鍋」「みかん〇〇」などでも楽しく俳句づくりができました。今年もこどもたちの作る俳句から季節の移ろいを感じた1年となりました。